

プロジェクトデザインⅢ 映像の視聴環境が与える 感情と情動反応への影響

心理情報学科 佛師田結
指導教員 伊丸岡俊秀

1. はじめに

日常生活において.....

映画やドラマを観る→感情が生じる

情動を喚起する手続きとして、映像は有力な手段
(野口・佐藤・吉川,2005)

最近の映画の視聴環境は...

▶ 近年では視聴環境にも変化が

Q.映画を観る手段として、最も多いのは？

(マイボイスコム株式会社,2009)

1位：地上波のテレビ

2位：レンタルDVD

3位：映画館

しかし、

視聴環境の違いが感情に与える影響についてはまだ明らかではない

本研究の目的

映像の視聴環境を変えることによって、
生じた感情や情動の程度に変化があるか
どうか調べる

▶感情を測るには？

体温や皮膚伝導、脈拍など交感神経や副交感神経に関わるものが指標（本多，2002）

映像コンテンツは感情を喚起する

▶ Gross & Levenson(1995)

被験者：アメリカ人

8つの情動（楽しさ、満足、怒り、嫌悪、恐怖、悲しみ、驚き、中性）を喚起する映画を選出し、映像刺激セットを作成

日本人被験者においても適用が可能

（野口・佐藤・吉川, 2005）

2.実験

▶ 方法

被験者：21～22歳の学生14名(男性8名、女性6名)

装置：バイタルモニタープロコンポ（エムピージャパン株式会社）の皮膚導通センサー・皮膚温度センサー・指尖脈波センサー、PC(windows)、200インチスクリーン、プロジェクター、40インチのモニター

- ▶ 刺激：異なる感情や情動を喚起する2種類の映画
(Gross & Levenson, 1995)

「The Champ (チャンプ)」

「Capricorn One (カプリコン・1)」



中でも、日本人被験者において顕著に喚起されやすい、
驚きと悲しみをターゲット感情に（野口・佐藤・吉川,
2005）

実験環境

映画館環境：金沢工業大学感動工学研究所スタジオ実験室、16:9のハイビジョンスクリーン（200インチ）、音響は7.1chサラウンド、照明は消灯

家環境：広さ4.2m²の実験ブース、40インチのモニター、音響はステレオ、照明は点灯

手続き

安静時（3分間）



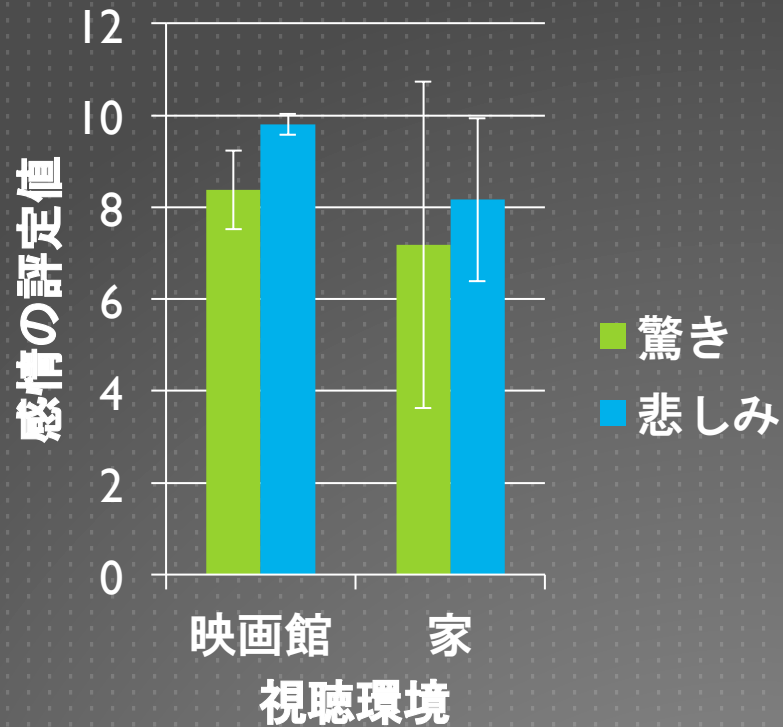
映像刺激を始めからターゲット場面まで視聴



質問紙で感情を主観的に評価

生理指標
の
計測

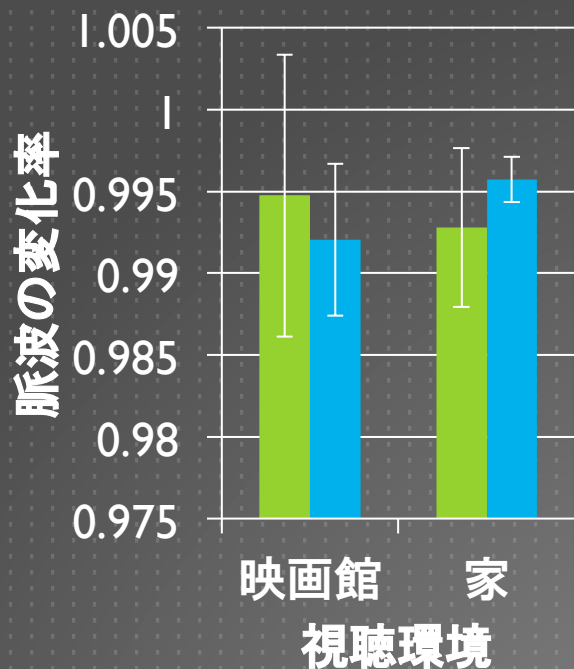
結果



感情の評定値は悲しみについて
視聴環境で有意傾向があった
($t(10)=4.13, p<.1$)

感情の評定値の平均

生理指標（安静時と比較）



指尖容積脈波の変化率

皮膚伝導性の変化率

皮膚温度の変化率

■ 驚き
■ 悲しみ

考察

- ▶ 主観的な感情の程度は 映画館＞家
- ▶ 生理データからは顕著な効果は見られなかった

環境の違いは情動的よりも高次な感情面への効果が大きいのではないか？